

平成29年3月15日	資料1
第36回レセプト情報等の 提供に関する有識者会議	

第三者提供の成果物集計について

平成29年3月15日
厚生労働省保険局医療介護連携政策課
保険システム高度化推進室

背景

- ◆平成23年度より、医療費適正化計画策定に資する目的以外でのNDBデータの利用が認められ、有識者会議で承諾を受けた研究に対してNDBデータの第三者提供が開始された
- ◆現在（平成29年3月）まで125研究に対するデータ提供が承諾されている



今回、すでに公表（学会発表・論文発表等）されたNDBデータ第三者提供の成果物について報告する

データ提供実績（平成29年3月時点）

	特別抽出	サンプリング データセット	基本データセット	集計表情報
基本的な イメージ	申出者の要望に応じ、データベースにある全データのなかから、該当する個票の情報を抽出し、提供する	探索的研究へのニーズに対応し、抽出、匿名化などを施して安全性に十分配慮した、単月分のデータセット	入院、外来、疾患別など目的に合わせて年度ごとに紐付けが可能で、簡易に分析することが可能なデータセット	申出者の要望に応じ、データを加工して作成した集計表を提供する
提供データ	個票	一部匿名化等を行った個票	大幅に加工した個票	集計表
含まれている データ項目例	レセプト情報、特定健診等情報に含まれている、ほぼすべての項目	希少な情報があらかじめ匿名化・削除されたレセプトデータ	患者の基本属性情報以外は、主傷病名、診療識別情報、要望に応じたコードなど	集計表
データ提供 承諾件数 (計125件)	71件	20件	2件	32件
研究目的での データ提供 承諾件数 (計89件)	44件	18件	2件	25件

利用実績

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
1	今中 雄一	全国網羅的なレセプト情報の有効活用に資するデータベース基盤の課題と設計	学会	第51回日本医療・病院管理学会学術総会	2013	猪飼宏 大坪徹也 今中雄一
2	今中 雄一	入院患者移動に基づく県境を越える 疾病別医療圏の分析: ナショナルデータベースを用いて	学会	第33回医療情報学連合大会	2013	小林大介 大坪徹也 今中雄一
3	今中 雄一	「脳梗塞t-PA治療の経済評価と均てん化施策」	論文	脳と循環 Vol.19,No.3	2014	今中雄一
4	今中 雄一	混合診療と医療改革 下	新聞	日本経済新聞(20140725付)	2014	今中雄一
5	今中 雄一	レセプト・ナショナルデータベース(NDB)に基づく入院医療費関連要因の分析: 地域格差、保険者格差の検討	学会	第9回医療経済学会研究大会	2014	後藤悦、大坪徹也、猪飼宏、今中雄一
6	今中 雄一	DPC,NDBデータを用いた医療の質の評価	学会	第52回日本医療・病院管理学会学術シンポジウム	2014	猪飼宏、今中雄一
7	今中 雄一	Regional Variations in In-hospital Mortality, Care Processes, and Spending in Acute Ischemic Stroke Patients in Japan	論文	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases,2015; Vol. 24, No.1: 239-251	2015	Tetsuya Otsubo, Etsu Goto, Toshitaka Morishima, Hiroshi Ikai, Chiaki Yokota, Kazuo Minematsu, and Yuichi Imanaka
8	今中 雄一	平成25年度厚生労働科学研究「レセプト情報・特定健診等情報データベースの利活用に関する研究」データ精度管理部門 報告書	報告書	平成25年度厚生労働科学研究「レセプト情報・特定健診等情報データベースの利活用に関する研究」	2014	今中雄一、猪飼宏 大坪徹也
9	今中 雄一	The Importance of Databases	OECD「医療の質」のレビュー公表イベント	OECD Reviews of Health Care Quality: Japan	2014	Yuichi Imanaka
10	今中 雄一	厚労省ビッグデータ戦略研究「健康医療研究分野における大規模データの分析及び基盤整備に関する研究」中間報告会	報告	厚労省ビッグデータ戦略研究「健康医療研究分野における大規模データの分析及び基盤整備に関する研究」中間報告会	2014	今中雄一

※申出者より成果物として提出された公表物について集計 3

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
11	高田 充隆	データベース活用事例の紹介; アカデミアの立場から① ナショナルレセプトDB	論文	薬剤疫学 Jpn J Pharmacoepidemiol, 2012; 17(2):155	2012	高田充隆
12	高田 充隆	ナショナルデータベースを用いた低用量アスピリン療法における消化管傷害リスクに関する研究	論文	医療薬学 2013; 39(8): 471-481	2013	高田充隆
13	高田 充隆	ナショナルレセプトデータベースによる低用量アスピリンと抗潰瘍薬との併用に関する研究	学会	薬学会第133年会	2013	高田充隆
14	柴田 亜希子	がん患者数計測資料としてのレセプト情報等の利用可能性	学会	第72回日本公衆衛生学会	2013	柴田亜希子、片野田耕太、松田智大、松田彩子、西本寛
15	柴田 亜希子	地域がん登録標準システムの開発と適用 -がん患者数に関する考察-	報告書	厚生労働科学研究費補助金(第3次総合戦略研究事業)分担研究報告書	2013	柴田亜希子
16	柴田 亜希子	がん患者数計測資料としてのレセプト情報等の利用可能性	論文	厚生の指標 61(12): 6-12 2014	2014	柴田亜希子、片野田耕太、松田智大、松田彩子、西本寛、祖父江友孝
17	久保田 潔	ナショナルレセプトデータベースの活用可能性を探る - 乾癬の疫学研究から -	学会	第19回日本薬剤疫学会	2013	久保田潔、佐藤嗣道、大場延浩、上島有加里
18	久保田 潔	Epidemiology of Psoriasis in Japan: Results from a Descriptive Study Using National Database	学会	30th International Society for pharmacoepidemiology	2014	Yukari Kamijima, Nobuhiro Ooba, Tsugumichi Sato, Kiyoshi Kubota
19	久保田 潔	Epidemiology of psoriasis and palmoplantar pustulosis: a nationwide study using the Japanese national claims database	論文	BMJ Open. 2015 Jan 14;5(1):e006450.	2015	Kiyoshi Kubota, Yukari Kamijima, Tsugumichi Sato, Nobuhiro Ooba, Daisuke Koide, Hajime Iizuka, Hidemi Nakagawa
20	久保田 潔	ミニシンポジウム 疫学 レセプトデータに基づいた疫学	学会	第28回日本乾癬学会学術大会	2013	久保田潔、佐藤嗣道、大場延浩、上島有加里

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
21	久保田 潔	ナショナルレセプトデータベースの活用可能性を探る - 乾癬の疫学研究から -	学会	第19回日本薬剤疫学会学術集会	2013	久保田潔、佐藤嗣道、大場延浩、上島有加里
22	飯原 なおみ	わが国のナショナルレセプトデータベースが示した 運転等禁止・注意医薬品の使用実態	論文	医療薬学 2014; 40(2): 67-77	2014	飯原なおみ、吉田知司、岡田岳人、中妻 章、桐野 豊
23	飯原 なおみ	運転等禁止医薬品と運転等注意医薬品の使用実態 —ナショナルデータベースの解析	学会	第19回日本薬剤疫学会	2013	飯原 なおみ、吉田 知司、桐野 豊
24	飯原 なおみ	ナショナルレセプトデータベースを用いた運転等禁止・注意医薬品使用における年齢階層別分析	学会	日本薬学会第134年会	2014	飯原なおみ、吉田知司、岡田岳人、中妻章、山口裕加、桐野豊
25	飯原 なおみ	ナショナル・レセプト・データベースを用いた医薬品使用実態研究	論文	医薬ジャーナル 2016; 52(.8): p1881	2016	飯原なおみ
26	飯原 なおみ	運転等禁止・注意医薬品-高齢者で用量制限のある医薬品は要注意-	論文	香川県薬剤師会会誌 161	2016	飯原なおみ
27	伊藤 弘人	日本全国の統合失調症患者への抗精神病薬の処方パターン: ナショナルデータベースの活用	論文	臨床精神薬理 2013;16:1201-1215	2013	奥村泰之、野田寿恵、伊藤弘人
28	伊藤 弘人	レセプト情報・特定健診等情報サンプリングデータセット分析とその意義	論文	統計 2014年10月号	2014	伊藤弘人、奥村泰之
29	伊藤 弘人	医療・病院管理におけるビッグデータの利用(後編)	学会	第52回日本医療・病院管理学会学術総会	2014	伊藤弘人、奥村泰之
30	伊藤 弘人	ナショナルデータベースを用いた外来診療における抗不安薬・睡眠薬の処方実態の検討	論文	臨床精神医学 2014; 44(7):1003-1010	2014	荒川亮介、奥村泰之、池野敬、金 吉晴、伊藤弘人

※申出者より成果物として提出された公表物について集計

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
31	木村 通男	レセプト情報データベースを用いた調査-調査時同月内異施設同一検査実施状況-	論文	医療情報学2015; 35(5):213-217	2015	木村通男、清水俊郎、渋谷雅彦、野口 大輔、小野 悟、渡辺 浩
32	吉村 公雄	日本における胃瘻の実態-レセプト全国データのと医師への郵送調査の結果-	会議録	日本医療病院管理学会誌 会議録 52.2.145.	2014	池田 漠、リー・アンドリュー・キセイン、吉村公雄、池上直己
33	椿 広計	サンプリングデータセットを用いた併用禁止医薬品等の処方実態研究	論文	医療情報学 2104; 34(6): 293-304 293	2014	關 真美、椿 広計
34	椿 広計	サンプリングデータセットを用いた併用禁止医薬品等の処方実態研究	学会	第72回日本公衆衛生学会	2013	關 真美、椿 広計
35	東 尚弘	がん診療連携拠点病院の治療と連携に関する研究	報告書	厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業) 分担研究報告書		東 尚弘
36	長谷川 友紀	Cost of hematopoietic stem cell transplantation in Japan – an analysis based on the national claim database	学会	第11回国際医療経済学会	2015	Takefumi Kitazawa, Kunichika Matsumoto, Kanako Seto, Shigeru Fujita, Tomonori Hasegawa
37	長谷川 友紀	Cost of renal transplantation in Japan – an analysis based on the national claim database	学会	第11回国際医療経済学会	2015	Tomonori Hasegawa, Kunichika Matsumoto, Kanako Seto, Shigeru Fujita, Takefumi Kitazawa
38	長谷川 友紀	ナショナルデータベースを用いた移植後合併症発症と医療費の関連に関する研究	学会	第17回日本医療マネジメント学会学術総会	2015	北澤健文、松本邦愛、藤田茂、瀬戸加奈子、長谷川友紀
39	長谷川 友紀	Cost of transplantation in Japan – an analysis based on the national claim database	学会	The Transplantation Science Symposium Asian Regional Meeting	2016	Takefumi Kitazawa, Kunichika Matsumoto, Kanako Seto, Shigeru Fujita, Tomonori Hasegawa
40	長谷川 友紀	Cost Analysis of Transplantation in Japan, Performed With the Use of the National Database	論文	Transplantation Proceedings, 2017; 49: 4e9	2017	T. Kitazawa, K. Matsumoto, S. Fujita, K. Seto, and T. Hasegawa

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
41	大日 康史	Evaluation of estimated number of influenza patients from national sentinel surveillance using the national database of electronic medical claims.	論文	Jpn J Infect Dis. 2015;68(1):27-9	2015	Nakamura Y, Sugawara T, Kawanohara H, Ohkusa Y, Kamei M, Oishi K.
42	大日 康史	Abnormal behavior during influenza in Japan during the last seven seasons: 2006-2007 to 2012-2013.	論文	J Infect Chemother. 2014 Dec;20(12):789-93.	2014	Nakamura Y, Sugawara T, Ohkusa Y, Taniguchi K, Miyazaki C, Momoi M, Okabe N
43	大日 康史	薬局サーベイランスでの都道府県毎のインフルエンザ患者数推定の全国全医科電子レセプトによる評価		第88回日本感染症学会学術講演会	2014	中村 裕樹、菅原 民枝、大日 康史、大石 和徳.
44	大日 康史	全医科電子レセプトを用いたインフルエンザの推定患者の検討	学会	第88回日本感染症学会学術講演会	2014	菅原 民枝、中村 裕樹、大日 康史、大石 和徳
45	大日 康史	厚生労働省発保0902第7号に基づく感染症の患者推計報告書.	報告書	厚生労働省発保0902第7号に基づく感染症の患者推計報告書.	2013	大日康史、菅原民枝
46	細見光一	抗精神病薬による錐体外路症状の関連性の解析 -ナショナルデータベースを用いて-	学会	第135年会日本薬学会	2015	細見光一
47	細見光一	Association of Antipsychotic Use With Extrapyramidal Symptoms: Data Mining of the Japanese National Receipt Database	学会	31st International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management Risk Management	2015	Kouichi Hosomi,
48	細見光一	ナショナルデータベースを用いた抗精神病薬による錐体外路系症状のリスクに関する解析	論文	医療薬学 2016; 42(2): 87-97	2016	細見光一
49	森 由希子	レセプト情報を用いた本邦における胃がん治療の実態調査	学会	第13回臨床腫瘍学会	2015	森 由希子、岡本和也、加藤源太、黒田知宏、武藤 学
50	森 由希子	胃癌症例を対象としたレセプト情報解析のためのデータマートの構築	学会	第53回癌治療学会	2015	岡本和也、森 由希子、加藤源太、黒田知宏、武藤 学

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
51	森 由希子	胃がん患者の治療実態調査のためのレセプトデータ再構築	学会	第35回医療情報連合大会	2015	岡本和也、森 由希子、加藤源太、黒田知宏、武藤 学
52	森 由希子	ナショナルデータベース(NDB)の解析ー胃癌治療の実態調査を目的としたレセプト情報データウェアハウスの構築ー	論文	医学のあゆみ2016; 259(7): 755-759	2016	岡本 和也
53	三宅康史	総説1. 日本における熱中症の現状と対策	論文	Geriatric Medicine(老年医学)2014; 52(5):469 -478	2014	三宅康史
54	三宅康史	レセプトデータの救急医療領域へ利用可能性について ー熱中症診療ガイドランにおけるレセプト情報等の活用事例告ー	学会	第43回救急医学会	2015	加藤 源太、三宅 康史、小池 薫、吉村 健佑、平野 景子
55	三宅康史	レセプトデータを用いた最近5年の熱中症患者の推移(2010~2014年)	論文	日本医師会雑誌 2015; 144(3): 527-532	2015	三宅康史、神田 潤、宮本和幸、清水敬樹、中村俊介、有賀 徹
56	飯原 なおみ	Polypharmacy of medications and fall-related fractures in older people in Japan: a comparison between driving-prohibited and driving-cautioned medications	論文	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics, 2016, 41, 273-278	2016	N. Iihara, Y. Bando, M. Ohara, T. Yoshida, T. Nishio, T. Okada, Y. Kirino
57	飯原 なおみ	ナショナルレセプトデータを用いた医薬品使用の課題解析(1) ー転倒に関係する骨折発症ー	学会	日本薬学会第135年会	2015	佐野祐子、飯原なおみ、岡田岳人、吉田知司、坂東義教、西尾貴之、大原昌樹、桐野豊
58	飯原 なおみ	良薬は「調剤情報」利活用の仕組みが左右する	学会	第29回日本医学会総会 関西	2015	飯原なおみ
59	飯原 なおみ	サンプリングデータセットを用いた 運転禁止・注意薬に関する研究	学会	日本薬学会レギュラトリーサイエンスエキスパート研修会専門コース第181回	2015	飯原なおみ
60	飯原 なおみ	ナショナルレセプトデータから見える医薬品使用の課題	学会	四国オープンイノベーションワークショップ	2015	西尾貴之、飯原なおみ

※申出者より成果物として提出された公表物について集計

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
61	宮下 光令	A preliminary survey to measure quality indicators of palliative care using the National Database	学会	第74回日本癌学会学術総会	2015	Yuko Sato, Chikashi Ishioka
62	宮下 光令	ナショナルデータベースを用いた、がん患者の死亡2週間前の終末期医療の質の評価: サンプルングデータセットの活用とその限界	論文	Palliative Care Research 2016; 11(2): 156-65	2016	佐藤 悠子、藤森 研司、石川 光一、佐藤 一樹、石岡 千加史、宮下 光令
63	西 信雄	特定健診・特定保健指導における運動指導と食事指導の併用効果	学会	第26回日本疫学会学術総会	2016	西 信雄、池田奈由、宮地元彦
64	西 信雄	特定健診結果からみた特定保健指導における運動指導と食事指導の効果	学会	第27回日本疫学会学術総会	2017	西 信雄、池田奈由、宮地元彦
65	頭金 正博	The effectiveness of risk communication regarding drug safety information: a nationwide survey by the Japanese public health insurance claims data	論文	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics, 2015, 40, 273-278	2015	Hiroshi Hagiwara, Shun Nakano, Yoshihiro Ogawa and Masahiro Tohkin
66	頭金 正博	薬剤疫学研究のためのナショナルレセプトデータベースの有用性と限界	学会	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会	2013	中野駿、萩原宏美、小川喜寛、頭金正博
67	頭金 正博	ナショナルレセプトデータを用いた市販後副作用情報の伝達におけるDI室設置の有用性についての検討	学会	第34回日本臨床薬理学会学術総会	2013	萩原宏美、中野駿、小川喜寛、頭金正博
68	頭金 正博	ナショナルレセプトデータを用いた腎障害患者における心疾患併発時の降圧薬の使用実態調査について	学会	第36回日本臨床薬理学会学術総会	2015	萩原宏美、西川良平、福澤和輝、頭金正博
69	恒石 美登里	NDB からみる歯科医療・口腔保健ニーズ	学会	深井保健科学研究所 第15回コロキウム	2016	恒石美登里
70	恒石 美登里	NDB(レセプト情報・特定健診等情報データベース)による歯数と医科医療費との関連	論文	社会歯科学会雑誌 第9巻 第1号	2016	恒石美登里、山本龍生、石井拓男

※申出者より成果物として提出された公表物について集計

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
71	恒石 美登里	歯数と医科および歯科医療費との関連－レセプト情報・特定健診等情報データベースによる検討－	論文	歯科医療管理学会雑誌 第51巻第3号 136～142(2016)	2016	恒石美登里、山本龍生、石井拓男、和田康志、杉山茂夫
72	恒石 美登里	ナショナルデータベース分析による「歯数と歯科医療費との関連」について	論文	日歯広報 第1675号	2016	恒石美登里
73	大江 和彦	基本データセットの利活用に関する検討	報告書	平成27年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))「レセプト情報・特定健診等情報データベースの利活用の推進に関する研究」(H27-政策-指定-008)平成27年度報告書	2015	大江和彦、佐藤大介
74	豊川 智之	Estimation of the number of children with cerebral palsy using nationwide health insurance claims data in Japan	論文	DEVELOPMENTAL MEDICINE & CHILD NEUROLOGY	2016	Satoshi Toyokawa, Eri Maeda, Yasuki Kibayashi
75	豊川 智之	レセプト情報・特定健診等データベース(NDB)による脳性麻痺の地域差について	学会	第80回民族衛生学会	2015	豊川智之
76	豊川 智之	レセプト情報・特定健診等データベース(NDB)による脳性麻痺の患者数推定	学会	第74回公衆衛生学会	2015	豊川智之、前田恵理、小林康毅
77	武藤 正樹	後発医薬品普及促進のためのナショナルデータベース活用研究	学会	日本ジェネリック医薬品学会	2015	三津原 庸介
78	武藤 正樹	後発医薬品普及促進のためのナショナルデータベース(NDB)研究	論文	ジェネリック研究 Vol10, No.1(2016) (日本ジェネリック医薬品学会機関誌)	2016	武藤 正樹、羽田 明浩、三津原 庸介、高坂 又一郎、栗原 邦彦、武田 康昭
79	宇山 佳明	糖尿病患者におけるCVリスクに関する研究	学会	レギュラトリーサイエンスエキスパート研修会 専門コース(第181回)	2015	駒嶺真希
80	奥村 泰之	日本全国の統合失調症患者への抗精神病薬の処方パターン:ナショナルデータベースの活用	論文	臨床精神薬理 16:1201-1215,2013	2013	奥村泰之、野田寿恵、伊藤弘人

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
81	奥村 泰之	ナショナルデータベースを用いた外来診療における抗不安薬・睡眠薬の処方実態の検討	論文	臨床精神医学 44(7):1003-1010,2015	2014	荒川亮介、奥村泰之、池野敬、金 吉晴、伊藤弘人
82	奥村 泰之	過量服薬の発生率と再発率の地域差: ナショナルデータベースを活用した地域医療指標の可視化の試み	学会	第112回日本精神神経学会学術総会	2016	奥村泰之, 高橋邦彦, 立森久照
83	奥村 泰之	Epidemiology of overdose episodes from the period prior to hospitalization for drug poisoning until discharge in Japan: an exploratory descriptive study using a nationwide claims database	論文	Journal of Epidemiology	2017	Okumura Yasuyuki, Sakata Nobuo, Takahashi Kunihiro, Nishi Daisuke, Tachimori Hisateru
84	奥村 泰之	Risk of recurrent overdose associated with prescribing patterns of psychotropic medications after nonfatal overdose	論文	Neuropsychiatric Disease and Treatment	2017	Yasuyuki Okumura, Daisuke Nishi
85	奥村 泰之	大規模データを使用した向精神薬の処方調査	雑誌	精神科臨床Legato 2(1):12-17	2016	奥村 泰之
86	奥村 泰之	日本におけるレセプト情報等を活用した精神疾患の臨床疫学研究: 臨床データベース構築に向けて	雑誌	臨床精神薬理 18: 1019-1026	2015	奥村 泰之
87	田村 寛	レセプト情報・特定健診等情報(NDB)サンプリングデータセットを用いた糖尿病網膜症などへのレーザー治療の実態調査	学会	第28回日本レーザー医学会関西地方会	2015	平木秀輔、田村寛、加藤源太、後藤励、岡本和也、鈴間潔、吉村長久、黒田知宏
88	田村 寛	レセプト情報・特定健診等情報(NDB)サンプリングデータセットを用いた眼科領域レーザー治療の実態調査	学会	第28回日本レーザー医学会関西地方会	2015	平木秀輔、田村寛、加藤源太、後藤励、岡本和也、鈴間潔、吉村長久、黒田知宏
89	田村 寛	全国レセプトデータ(NDB)を用いた糖尿病合併高血圧患者に対する降圧治療についての検討	雑誌	日本腎臓学会誌	2016	平木秀輔、田村寛、加藤源太、塚本達雄、柳田素子、黒田知宏
90	田村 寛	レセプト情報サンプリングデータセットを用いた高血圧治療実態の検討	学会	第59回日本腎臓学会学術総会	2016	平木秀輔、田村寛、加藤源太、塚本達雄、柳田素子、黒田知宏

※申出者より成果物として提出された公表物について集計

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
91	田村 寛	全国レセプトデータ(NDB)を用いた糖尿病合併高血圧患者に対する降圧治療についての検討	学会	第59回日本腎臓学会学術総会	2016	平木秀輔、田村寛、加藤源太、塚本達雄、柳田素子、黒田知宏
92	川上 浩司	診療報酬請求情報ナショナルデータベースの制度上の課題と展望 -新規経口抗凝固薬薬剤疫学研究を事例に-	報告書	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 専門職学位過程課題研究報告集(2015年度)	2016	小野扶美子
93	亀井 美和子	平成27年5月12日厚生労働省発保0512第2号に基づくNDB利用による「感染症の患者推計」報告書	報告書		2016	亀井美和子
94	近藤 英治	国が提供するレセプト情報を用いた弛緩出血事例についての検討	学会	第68回日本産科婦人科学会学術講演会	2016	佐藤 麻衣
95	近藤 英治	レセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた弛緩出血についての実態調査	学会	第52回日本産科周産期・新生児医学会学術集会	2016	佐藤 麻衣
96	井上 真奈美	人口構成、社会経済状況、生活習慣の変化を考慮した疾病構造と経済的負担の将来予測	報告書	厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 平成25-27年度 総合研究報告書	2016	井上 真奈美、大久保 一郎、斉藤 功、横山 徹爾、西 信彦、山岸 良匡、池田 愛
97	井上 真奈美	人口構成、社会経済状況、生活習慣の変化を考慮した疾病構造と経済的負担の将来予測	報告書	厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 平成27年度 総括・分担研究報告書	2016	井上 真奈美、大久保 一郎、斉藤 功、横山 徹爾、西 信彦、山岸 良匡、池田 愛
98	森本 耕三	ナショナルデータベースを用いた非結核性抗酸菌症の治療実態調査	学会	第92回日本結核病学会総会	2017	森本 耕三
99	森本 耕三	ナショナルデータベースを用いた非結核性抗酸菌症の疫学研究	学会	第92回日本結核病学会総会	2017	泉 清彦
100	石田 博	レセプト情報・特定健診等情報データベース(時DB)を用いた地域医療連携システムの糖尿病管理に対する効果の評価に関する研究	報告書	平成27年厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 分担研究報告書	2015	石田博

No.	提供依頼申出者	演題名	発表形式	発表媒体	発表時期	発表者
101	石田 博	レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた地域医療連携システムの糖尿病管理に対する効果評価の試み	論文	第36回医療情報学連合大会 36th JCMII(Nov.,2016)	2016	石田 博、猪飼 宏、白鳥 義宗 渡邊 直、岡田 美保子
102	中山 健夫	NDBデータを活用した高齢CKD患者の診療の質評価	報告会	厚生労働科学研究健康医療分野のデータベースを用いた戦略研究	2017	中山 健夫
103	福間 真悟	腎疾患データベース研究	学会	日本臨床疫学会発足記念講演会	2016	福間 真悟
104	満武 巨裕	レセプトビッグデータ解析の現状と将来	論文	実験医学増刊 Vol.34 No.5 ビッグデータ 変革する生命科学・医療	2016	満武 巨裕
105	満武 巨裕	日本のレセプト情報・特定健診等データベース(NDB)の有効活用	論文	情報処理2015年2月号別刷 「《特集》ウェルネスのためのICT」	2015	満武 巨裕

※申出者より成果物として提出された公表物について集計

レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン（抄）

第12 提供依頼申出者による研究成果等の公表

1 研究の成果の公表

提供依頼申出者は、レセプト情報等を利用して行った研究の成果を申出書に記載した公表時期、方法に基づき公表する。

提供依頼申出者は、公表前に公表を予定する研究の成果について任意の様式で厚生労働省へ報告することとし、厚生労働省は、当該研究の成果とあらかじめ承諾された公表形式が整合的であるか、また、個人情報保護の観点から2の「研究の成果の公表にあたっての留意点」の公表形式の基準を満たしているか確認する。また、必要に応じて審査分科会の構成員が確認を行うこととする。

当該公表に際して、提供依頼申出者及び利用者は、レセプト情報等を基に提供依頼申出者又は利用者が独自に作成・加工した統計等についてはその旨を明記し、厚生労働省が作成・公表している統計等とは異なることを明らかにする。学会誌の投稿等を予定していたが、結果的に論文審査を通らなかったなどにより、申出書に記載したいずれの公表方法も履行することができず、新たな公表方法により公表を行う場合は、新たな公表方法について記載事項変更依頼申出等の提出を行う措置をとった上で、公表を行う。

2 研究の成果の公表にあたっての留意点

研究の成果の公表にあたっては、個別の同意がある場合等を除き、原則として利用者は公表される研究の成果によって特定の個人又は医療機関等が第三者に識別されないように、次の公表形式の基準に基づき、十分に配慮しなければならない。

第13 実績報告書の作成・提出

1 実施状況報告の提出

国の行政機関、都道府県又は市町村以外の提供依頼申出者は、研究成果の公表後速やか(3ヶ月以内)にその公表も含めた成果の概要について、厚生労働省へ利用実績報告書により報告する。

2 利用実績の公表

厚生労働省は、報告を受けた利用実績を取りまとめ、有識者会議に報告するとともに、必要に応じて利用実績をホームページ等により公表する。